



「未来を照らす子ども達の頑張り!日向中学校生徒会 ～自分たちの汗で能登支援～」

新年早々、日本中を震撼させた能登半島地震。南海トラフ大地震の危機にさらされている日向市民にとっても人ごとではありません。四季の変化に富み、美しい景観を誇る日本ですが、近年は地震や台風などの自然災害に涙することが繰り返されています。そんな中、復興の光は、日本各地からの支援であることが被災者のインタビューなどから分かります。

今回、考えて動いたのが日向中学校の生徒会。単なる募金ではなく、自分たちの住む地域のボランティア活動を通して得たお金を義援金として被災者に届けることを発案しました。もちろん中学生ですからプロの仕事は出来ません。お手伝いのレベルです。しかし、そのお手伝いを有償のボランティアとして認めていただく協力者を募集しました。PTA会長を始めとした大人のネットワークを生かし、協力事業所や団体を見つけた子ども達は、事業所や福祉施設、個人のお宅などで「有償ボランティア」をやり遂げました。内容は清掃や窓拭き、洗車や農産物の袋詰めなどです。生徒の純な意図を汲んでくださった大人達の存在に頭が下がります。まさに、日向の大人は皆子ども達の先生です。



【ボランティア作業の様子】

活動は、2月17日(土)、2月18日(日)、2月24日(土)の合計3日、内容によって1～3時間で、参加した有償ボランティアは有志生徒延べ99名に上りました。

この取組みによって、総額81,206円の浄財が集まり、3月14日の生徒集会で全校生徒へ発表されました。当たり前が奪われた被災者の方への思いや励まし、困ったときはお互い様の精神、社会をほんの少し知ることが出来たことなどが確認されました。深い学びとして刻まれたことでしょう。

取組を支援してくださった株式会社創建の代表取締役 安藤 靖様に今回の活動の印象を聞いてみました。

Q1 なぜ、有償ボランティアに協力しましたか？

生徒会のお願い文に書いた。「自分たちの力で生み出したお金を義援金として届けたい」という気持ちに感銘した為です。

Q2 生徒たちの動きぶりは、有償ボランティアに値しましたか？

十分値しました。不安な中、自分たちに出来ることを一生懸命やっていただきました。

Q3 生徒たちとのやり取りの中で、感心したことや記憶に残ったことがありましたか？

生徒会(生徒)が中心となり、自発的に考え行動に動いたことはとても素晴らしい事と記憶に残っています。大人の私たちにはない柔軟な発想も素晴らしいなと感心しました。

Q4 中学校時代に「働く」経験をすることについて、どう思われますか？

地域の企業を知ることや、様々な職種があることなど知る以外にも、今回当社では、労働と対価の関係、最低賃金制度を知ってもらうなどの説明もしました。生徒の学費や生活費、お小遣いなど、皆さんの保護者も大変な努力をして働いていることを伝えることが出来良かったのではないかと思います。

報酬は、誰かの「ありがとう」で発生します。今回は「きれいになった」「助かった」「感動した」ことへの「ありがとう」をたくさん集めての支援でした。能登から遠く離れていても働く(傍(はた:まわり)を楽にする)意味に触れた未来の主役たちは、これからも輝きを見せてくれることでしょう。

日向市教育委員会 学校教育課 三樹 和幸

※協力事業所 株式会社創建、S.Sファーム日向、障害者支援施設しおみの里、山本林業、みやさんのいちご、春原区公民館、広見区公民館名

東白杵管内のキャリア教育取組みのご紹介

今回は東白杵管内で取り組まれたキャリア教育の取り組み事例を2例ご紹介します。

西郷義務教育学校「ひなた場」開催

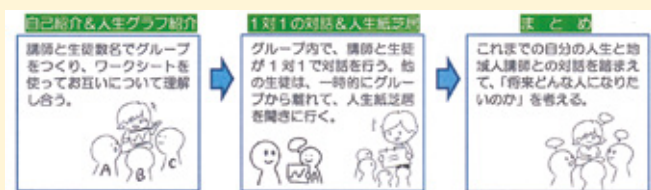
西郷義務教育学校では、去る2月8日(木)に地域業界のプロフェッショナルや地域のリーダーを講師(15名)としてお招きし、生徒(6・7・8年生36名)たちの将来にインスピレーションを与える「人生グラフ」や「人生紙芝居」などを取り入れたカリキュラム「ひなた場」を開催しました。

この取り組みは、生徒にさまざまな職業や産業に触れる機会を提供することで、楽しみながら新たな知識に触れ、自らの将来を考えていくというものです。

「ひなた場」の目的とは？

- 日常生活を立ち止まり、自分自身と向き合い、これからどうなりたいかを考える。
 - 憧れのロールモデル(理想にしたい大人の姿)を見つける。
 - 気軽に相談できる地域の大人等との関係をつくる。
- 等々を目的としています。

「ひなた場」の大まかなプログラムは、次のようになります。



以下、その様子です。



【人生グラフを用いての講師との触れ合い】



【人生紙芝居を用いての講師のおはなし】

この取り組みでは、講師の方々も生徒と触れ合うことで、自分の人生を振り返ることができて自分にとっても大変いい取組だったと話しておられました。

日向市キャリア教育支援センターでもこのカリキュラムを、今後、多くの学校で取り組んでいただけるよう推進していきたいと考えています。

美郷南学園「立志の集い」

美郷南学園が2月16日(金)に実施した「立志式」についてご紹介します。

「立志式」では、生徒は自分の「立志の誓い」を支給されているタブレットを駆使してスライド方式でまとめており、見る側にも良くわかるように工夫されていました。

講師お二人には生徒8年生(10名)の「立志の誓い」を聞いていただいた後に・人生観・職業観など「生徒との対話」を双方向のインタビュー形式で行うという取組でした。

その主な内容は

○お二人のこれまでの人生グラフを用いたおはなし ○迷った時や苦しい時にどのように乗り越えてきたか

○人生のターニングポイント(1ターンに至った経緯) ○10年後の目標

等々でした。

日向市キャリア教育支援センターへの依頼は、講師の方は1ターンで日向市、美郷町に移住定住されている方をということでしたので、以下2名の方々をお願いしました。

お一人目の三村隆之さんは、日向市によくサーフトリップで来られていた関係で愛知県から日向市に移住定住された方です。

お二人目の熊本県出身の上村かおりさんは、ご主人が美郷町北郷に炭焼き移住をされていた関係で、ご結婚後に同町に移住され、現在は北郷で「認可外保育園 yattara」を経営している方です。



【立志の誓い発表の様子】



【三村さん(左男性)・上村さん(右女性)との対話の様子】

生徒達はお二人の話聞いた後、美郷町を知ってもらうには、移住定住促進はどうすれば進むか等々、熱心に質問し適切なアドバイスをいただいていた。

インタビュー形式の対話型の講話は、一方方向の情報の伝達だけでなく、参加感や理解の深化、興味の維持、学習の促進、人間的なつながりの形成など、さまざまな要素があり、今後の「よのなか教室」に取り入れて行けたらと感じたところです。

